



ヨコハマトリエンナーレ 2014 世界でただ一冊の本の消滅とともに閉幕

- ◆閉幕イベント:消滅のためのラストショー「Moe Nai Ko To Ba を燃やす」
- ◆マイケル・ランディ《アート・ピン》 延べ 490 作家が作品を投棄
- ◆高山明/Port B 《横浜コミュニン》 5 日間のライブ・インスタレーションを終了

ヨコハマトリエンナーレ 2014 は、会期最終日となる 11 月 3 日(月・祝)『Moe Nai Ko To Ba』を燃やすラストショーを開催。アーティストック・ディレクター森村泰昌が掲げたテーマ「忘却」を巡る旅になぞらえた本展は、大勢の来場者に見守られながら約3か月に及ぶ祭典に幕を下ろしました。

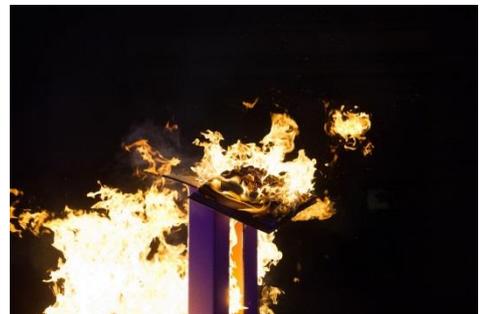
◆閉幕イベント:消滅のためのラストショー「Moe Nai Ko To Ba を燃やす」

本展のために制作された世界でただ一冊の本『Moe Nai Ko To Ba』を燃やすラストショーは、最終日 11 月 3 日(月・祝)の夕刻に開催。

第一部は横浜美術館の展示室でスタート。ロシア語、ドイツ語など 6 つの言語で書かれた 8 つのテキストを、ゲストがそれぞれの原語で朗読した後、最後の朗読者として森村泰昌 AD が登壇し、自身がオリジナルのドローイングを記した中屋幸吉『最後のノート』を読み上げ本を持ち去りました。本がなくなった展示室では横浜トリエンナーレサポーターにより結成された「Moe Nai 演劇部」がテキストを暗唱。『Moe Nai Ko To Ba』は展示室の中で響き続けました。

第二部は美術館前の広場に舞台を移して開催。龍が静かに舞った後、森村泰昌は『Moe Nai Ko To Ba』とともにふたたび登場。本は「本の女神」に手渡され、やがて池の中へ。そこへ「火着け人」が現れて小説『華氏 451 度』のように火を放ち、横浜美術館をバックに『Moe Nai Ko To Ba』は赤々と炎上。防火服に身を包んだ森村泰昌が燃え上がった本を救出し、ヨコハマトリエンナーレ 2014 はフィナーレを迎えました。

※ 『Moe Nai Ko To Ba』については公式ウェブサイトの以下ページをご覧ください。
<http://www.yokohamatriennale.jp/archive/2014/artist/m/artist433/>



消滅のためのラストショー「Moe Nai Ko To Ba を燃やす」
第二部 消滅の海へ
撮影：加藤健



消滅のためのラストショー「Moe Nai Ko To Ba を燃やす」
第一部 最後の朗読



消滅のためのラストショー「Moe Nai Ko To Ba を燃やす」
第二部 消滅の海へ
撮影：加藤健(左右とも)

◆マイケル・ランディ《アート・ビン》 延べ 490 作家が作品を投棄

横浜美術館のグランドギャラリーに設置されたマイケル・ランディによる《アート・ビン》(芸術のためのゴミ箱)への作品投棄は、最終日11月3日(月・祝)に、笠原出氏の参加を得て終了。「創造的失敗のモニュメント」横浜版は、ここで幕を閉じました。期間中、第一線で活躍するアーティストや美大生、近隣にお住まいの方々や海外からの来場者など、様々な人が自分の失敗作や未発表の作品などを会場に持ち寄り、7メートルの階段上から《アート・ビン》へ投棄しました。89日間でマイケル・ランディ本人、アーティストック・ディレクターの森村泰昌を含め、**延べ 490 作家**による投棄が行われました。



マイケル・ランディ《アート・ビン》 2010/2014
撮影：加藤健

※ 参加いただいた方々の作品記録写真は「アート・ビン Facebook」で公開しています。
※ 《アート・ビン》および「アート・ビン Facebook」については公式ウェブサイトの以下ページをご覧ください。
<http://www.yokohamatriennale.jp/2014/artbin/index.html>

◆高山明／Port B 《横浜コミュン》 5 日間のライブ・インスタレーションを終了

10月25日(土)まで横浜美術館で展示していた高山明／Port Bによる作品《横浜コミュン》(音声、字幕)は、10月30日(木)から黄金町にあるnitehi worksに舞台を移し、「日本語教室」を模したライブ・インスタレーションに形を変えて開催しました。

ベトナム、ラオス、カンボジアから日本に辿り着いたインドシナ難民6名と、横浜・寿町で生活する人々6名がそれぞれ対になって会場内に設置した6つのテーブルで「日本語教室」を展開。教材として本展タイトルの由来でもあるレイ・ブラッドベリ著『華氏 451 度』が使われました。各テーブルで繰り広げられる2人1組の「授業」の様子や会話を聴くためのラジオを用意し、観覧者には授業をのぞき見するように作品を鑑賞いただきました。また、ライブ・インスタレーションのほか、美術館で展示していた音声、字幕作品や、その作品を黄金町に引っ越しする様子の映像も展示し、まさに「漂流教室」が出現。閉幕までの**計 5 日間の開催で 566 名**の方にご来場いただきました。

※ 《横浜コミュン》については公式ウェブサイトの以下ページをご覧ください。
<http://www.yokohamatriennale.jp/2014/event/2014/07/post36.html>



撮影：加藤健 (左右ともに)

開催概要 会 期:2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝)
会 場:横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)
主 催:横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
支 援:文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)
特別協力:独立行政法人国際交流基金

※ 事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜=漢字表記)、第5回展の事業名は「ヨコハマトリエンナーレ 2014」(ヨコハマ=カタカナ表記)となります。

※ ヨコハマトリエンナーレ 2014 公式ウェブサイト: <http://www.yokohamatriennale.jp>

本リリースおよびご掲載に関するお問合せ

ヨコハマトリエンナーレ 2014 広報事務局(株式会社ユース・プランニング センター) 担当:浅野・池袋・岩川・鈴木
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 東海堂渋谷ビル 3F TEL:03-3486-0575 FAX:03-3499-0958 E-mail:yt2014@ypcpr.com